

MDA構想・海洋開発等重点戦略の 進捗状況について

令和7年3月26日
内閣府総合海洋政策推進事務局

MDA(海洋状況把握)に関する関係府省庁等連絡調整会議(課長級)

1. 全般

海洋開発等重点戦略のフォローアップ

重要ミッション名

海洋状況把握(MDA)及び情報の利活用の推進

①令和6年度（2024年度）の取組状況及び主な成果

- ・令和6年度（2024年度）中に、海保からリスク判定AIを移管するための諸調整（予算折衝、主要ユーザーや専門業者への説明、契約締結に係る諸手続き）実施し、予定通り令和7年度（2025年度）から海洋事務局が業務を引き継ぐことが可能となった。
- ・海しるビジネスプラットフォームの導入に向けた要件調査を実施するとともに、導入のためのニーズ調査を行う場として官民連携検討会を開催した（3月19日）。
- ・海しるについて、ワークショップや自由研究コンテストを通じて自治体等による活用事例を発掘し、シンポジウムにおいてはその活用事例を共有することにより、その普及啓発に努めた。
- ・3月3日ワシントンにてMDA日米実務者会合を実施し、今後の日米連携の方向性について意見交換を実施した。

②進捗状況 ※工程表に示すスケジュールとの関係での前倒し、遅れやその理由を記載

- ・概ね計画通りに進捗している。

③今後の課題及び対応方針

- ・リスク判定AIについては、各ユーザーからの意見を踏まえ利便性の向上に努めるとともに、MDA海外連携を見据えた実態調査を実施する。
- ・海しるビジネスプラットフォームについては、要件調査を引き続き行うとともに、設計開発に着手する。また、令和6年度（2024年度）に開始した官民連携検討会を引き続き開催し、関係企業等から得た意見・ニーズを得て、海しるビジネスプラットフォームの構築に反映する。
- ・海しるの普及啓発について、今年度の取組の経験から自由研究コンテストの応募が少ない等の課題が浮き彫りになった。これらの課題をふまえ、次年度にはより効果的な普及に努める。

海洋開発等重点戦略工程表「海洋状況把握(MDA)及び情報の利活用の推進」について

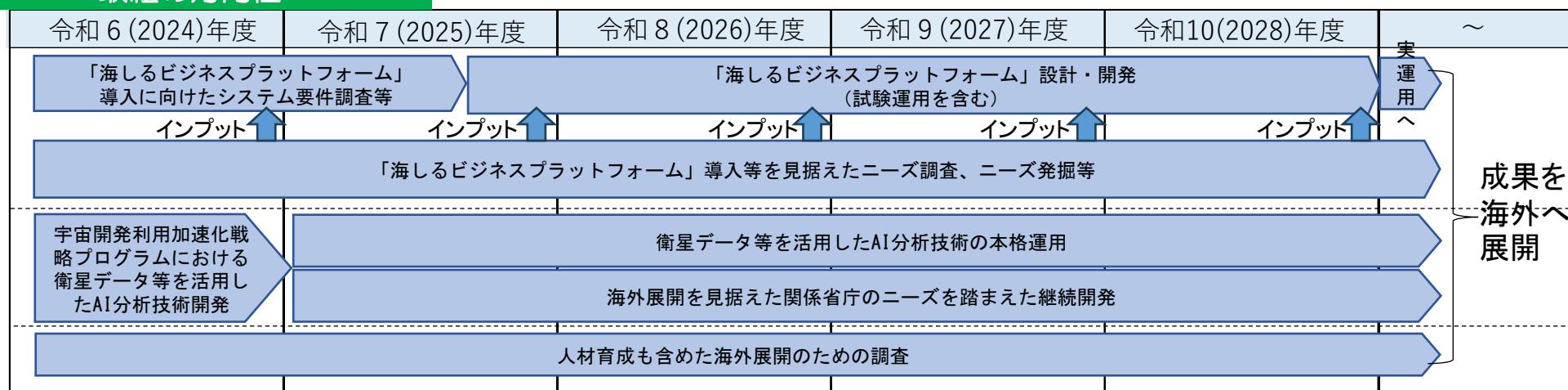
背景・現状及び施策の必要性

- 海洋情報の産業分野への利活用促進を図るため、民間ニーズを把握し、新たな仕組みを設計することが必要。
- 我が国の領海等における膨大な数の船舶から、リスクの早期発見・低減・縮小化を図るため、衛星データやAI等を活用し、関連省庁のニーズをフィードバックしつつ、共同利用可能な情報システムを開発・構築する必要。
- シーレーン沿岸国等への面的支援や、同盟国・同志国等とのシステム連携を含めた取組を進めることが重要。

達成すべき目標

- 令和11(2029)年度までに、「海しる」を基にして、「海しるビジネスプラットフォーム」を構築。
- 宇宙開発利用加速化戦略プログラムの衛星データ等を活用したAI分析技術開発において開発中のシステムについて、運用するとともに、関係省庁のニーズを踏まえながら開発を継続し、同盟国・同志国等への展開も見据えたシステムを令和11(2029)年度までに開発。
- 令和11(2029)年度までに、同盟国・同志国等とのシステムを通じた連携の確立を図る。

取組の方向性



【関係者の役割】 内閣府：全体像の提示、ニーズ調査、開発工程管理等 海上保安庁：AI分析技術について、システム開発を推進
関係省庁：産業界への働きかけ、ユーザーとしてのニーズ提案、海外展開の支援

主な成果指標

- 令和11(2029)年度までに、海洋における地理空間情報の利活用に関するユーザーコミュニティを構築するとともに、「海しるビジネスプラットフォーム」を開発し、有償情報掲載を20件とすることで、海洋情報の活用を通じた海洋の産業利用の促進につなげる。
- 令和11(2029)年度までに、「衛星データ等を活用したAI分析技術開発」において、海外展開を見据え、表示データの低負荷化等を図ったシステムを開発するとともに、MDAに関する国際社会のニーズを調査した上で、同盟国・同志国等とのシステムを通じた連携の確立を図る。

2. 海しるの普及啓発

ユーザーCommunityの構築

海しる利活用及び普及のための調査事業

有識者意見交換会からのご指導を得ながら、小中高生を対象とした自由研究コンテスト、地方自治体等でのワークショップ、これらの横展開を図るシンポジウムを開催し、「海しる」のユースケース等について調査するとともに、新たなニーズを掘り起こし、「海しる」の改善や利活用の推進を図ることで、**海のデータの官民での共有・活用を進め、ユーザーCommunityの構築につなげる。**

事業内容

(1) 「海しる」自由研究コンテスト

小中高生を対象に「海しる」を使った研究のコンテストを実施し、海洋や「海しる」に触れてもらうとともに、新たな視点での「海しる」活用事例を発掘

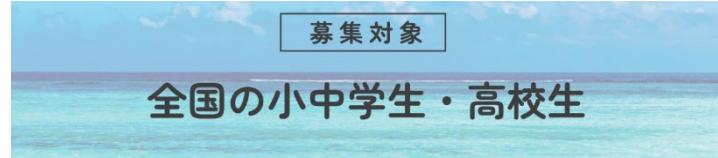
(2) 「海しる」ワークショップ

有識者の協力の下、自治体等、地域の海洋関係者を対象とした「海しる」のワークショップを開催し、潜在的ユーザーの発掘・アウトリーチを実施

(3) シンポジウム

シンポジウム（政府機関、研究機関及び企業等）を開催し、コンテストやワークショップの成果を横展開し、さらなる利活用事例を調査

(1) 海しる自由研究コンテストの実施



小中学生部門

- 最優秀賞:「海ゴミとぼく」
川崎市立長沢小学校 小学2年生 武田 悠人さん
- 優秀賞:「全国中学校ヨット選手権大会に地の利は存在するのか?」
高松市立紫雲中学校 中学2年生 津川 翔さん
- 優秀賞:「消波ブロックの重要性について～波から街を守れ～」
鹿児島市立南中学校 中学1年生 並松 蓮さん
- 優秀賞:「海洋生物の多様性をまもるために私ができること」
東京都千代田区立九段小学校 小学6年生 日高 杏理さん

高校生部門

- 最優秀賞:「新宮海岸における漂着物・生物調査と台風10号が砂浜に与えた影響について」
福岡県立新宮高等学校 高校2年生 大塚 爽依さん
- 優秀賞:「伊豆半島の海洋保全」
静岡県立韮山高等学校 高校2年生 日景 花恋さん 稲木 紗香さん 井上 侑香さん

(2) 「海しる」利活用ワークショップの開催

目的

地方自治体等でのワークショップを開催し、「海しる」のユースケースを調査するとともに、ニーズを掘り起こし、「海しる」の改善や利活用の推進を図ることで、海のデータの官民での共有・活用を進める

事業の概要

海洋利用に関する地方自治体や教育機関において、それぞれフォーカスする課題に即したテーマで参加者が**海しるを操作し、海洋情報を共有する**ワークショップを開催



期待される効果



海の成長産業化や新たな産業の創出に取り組む自治体・教育機関等における統一的な情報基盤としての「海しる」の利用

- ・「海しる」利用を拡大
- ・「海のデータ連携」を推進

必要な情報項目等の追加



「海しる」の内容・機能への要望・意見

各地域・コミュニティにおいて



例：洋上風力発電委員会等

- ・「海しる」活用で情報収集に要する地域のコスト・労力を軽減
- ・地域の海洋コミュニケーションを促進・海洋教育の促進
- ・同様の課題を抱える自治体・団体等に横展開

開催地	協力・共催機関
11月5日(火) 広島県江田島市	一社) フウド 代表理事 後藤様 江田島市
11月11日(月) 静岡県静岡市	静岡市 静岡理工科大学
11月27日(水) 三重県鳥羽市	鳥羽市
12月14日(土) 北海道羅臼町	羅臼町 公財) 知床財団 羅臼漁業協同組合

(3) シンポジウム「海洋データ利活用を通じた地域活性化」の実施

内閣府総合海洋政策推進事務局 主催

海洋データ利活用を通じた地域活性化シンポジウム

開催日時

2025年3月11日(火)14:00 ~ 17:00 (13:30開場)

開催場所

【会場】
イイノホール＆カンファレンスセンター 4階 RoomB
(東京都千代田区内幸町2丁目1-1飯野ビルディング)

【オンライン】

YouTubeライブ

開催が近くなりましたら、お申込みいただくメールアドレス宛に案内URLをお送りいたします。

テーマ

海洋データの利活用を通じた地域活性化

プログラム

- ・開会挨拶
- ・シンポジウム趣旨説明 内閣府総合海洋政策推進事務局 参事官 山尾 理
- ・基調講演：「(仮)持続可能な海の利用にむけた海洋空間計画について」
東京大学大気海洋研究所教授・笹川平和財團海洋政策研究所長 牧野 光琢先生
- ・海しる利活用ワークショップ開催報告・自治体職員及び参加有識者によるワークショップ事例紹介
- ・有識者委員による地域活性化に向けたパネルディスカッション

※当日のプログラムについては変更する場合があります

定員・参加費

会場:100名、オンライン:500名、参加費は無料

▼お申込みはこちら

申込方法

2025年3月10日(月)12:00までに右記QRコードまたは下記URLよりお申し込みください。
<https://forms.gle/vKUNTmTRVvVM6LEp7>

開催機関

主催:内閣府総合海洋政策推進事務局、協力:海上保安庁

